

6林道工第2号 林道中荒沢線雪見橋高欄改良工事

高欄改良工事 L=27m

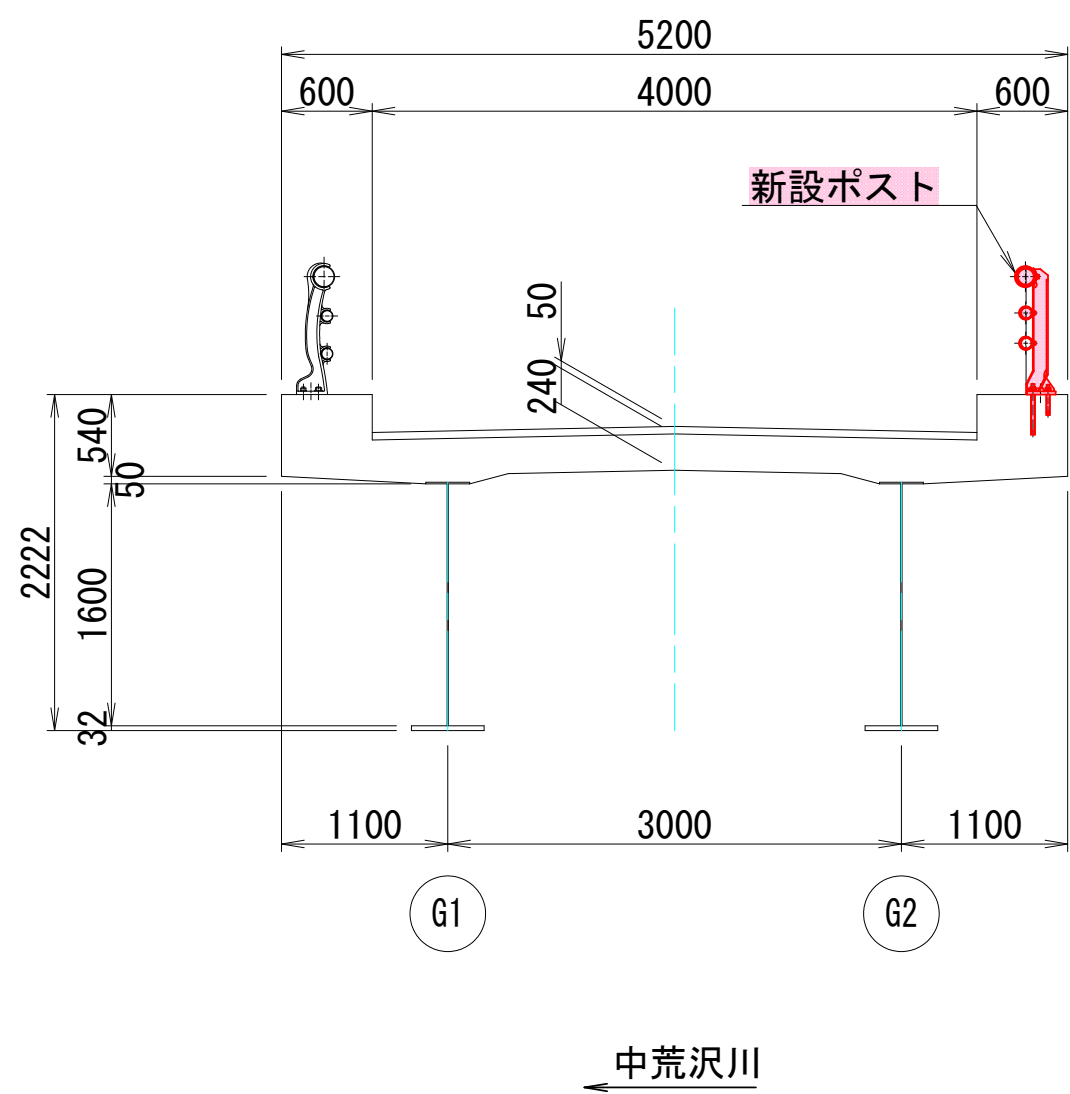
既設高欄撤去 L=17.6m (既撤去済 L=9.5m)

高欄設置 L=27.1m

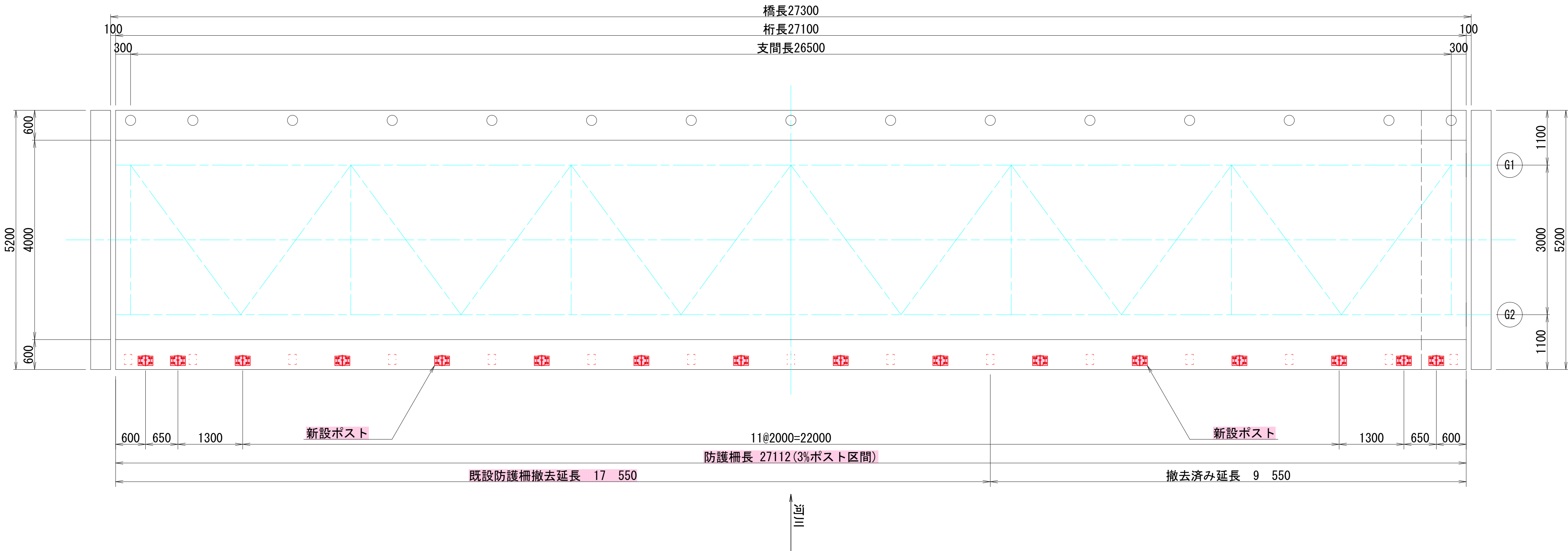
側面図



断面図



平面図



補修一覧

工 種	施工箇所	対策内容
防護柵取替え工	防護柵	鋼製車両用防護柵A種

設計条件

路 線 名	林道中荒沢線
橋 長	27.300m
桁 長	27.100m
支 間	26.500m
有効幅員/全幅員	4.0m /5.2m
斜 角	$\theta = 90^{\circ} 00' 00''$
上 部 工 形 式	鋼単純鈹桁橋 (耐候性)
下 部 工 形 式	逆T型橋台
基 礎 形 式	直接基礎
架 設 年 次	平成1年
交 差 物 件	中荒沢川 支流
適 用 示 方 書	昭和55年
設 計 活 荷 重	TL-20
設 計 雪 荷 重	常時 : 100kg/m ² 積雪時 : 5m (300kg/m ³)

注記

- 本図面は、既存資料及び現地測定をもとに作成した図面である。
- 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。

路 線 名	林 道 中 荒 沢 線		事 業 名	
林道区分	級別区分	2 級	設計速度	20 km/h
年 度	令和6年度		施工主体	魚 沼 市
名 称	高欄平面図	2 葉 中	1 番 No.	から まで
施 工 地	新潟県 魚沼 郡 (市)	町 村	宇津野 地内	
縮 尺	1 : 50	審 査 者		設 計 者

平面割付図 S=1:100

・防護柵長およびポストピッチはアンカー中心位置での実長を示す。



表面含浸工

鉄筋腐食抑制型表面含浸工法の施工仕様例

材料表

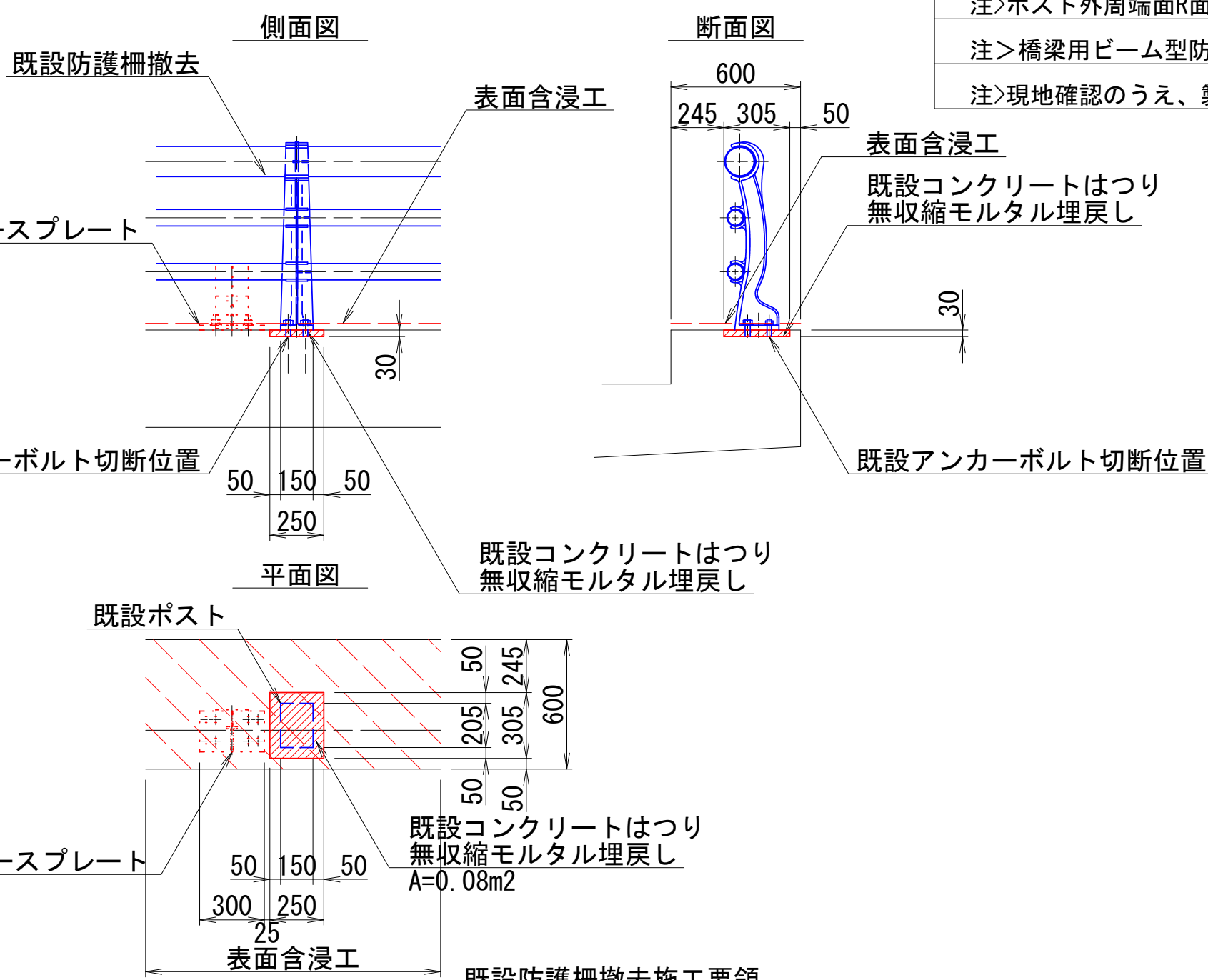
注記

1. 本図面は、既存資料及び現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
3. 施工前に地覆の鉄筋探査を行い、アンカーボルト位置を確認すること。

路 線 名	林 道 中 荒 沢 線	事 業 名			
林道区分		級別区分	2 級	設計速度	20 km/h
年 度	令和6年度		施工主体	魚 沼 市	
名 称	高欄詳細図		2 葉中	2 番 No. No.	から まで
施 工 地	新潟県	魚沼	郡 (市)	町村	宇津野 地内
縮 尺	1 : 50	審 査 者		設計者	

橋梁用ビーム型防護柵 S=1:10

SK-3AF-85WS 同等品



既設防護柵撤去施工要領

- 1) 既設防護柵を撤去する。
- 2) 既設ポスト周辺のコンクリートを30mmはつる。
- 3) アンカーボルトを切断し、ケレン及び防錆材の塗布を行う。
- 4) 無収縮モルタルによる断面修復を行う。
- 5) 再劣化対策のため表面含浸材を塗布する。

無収縮モルタル品質

※地覆コンクリートと同程度の圧縮基準強度を確保する。

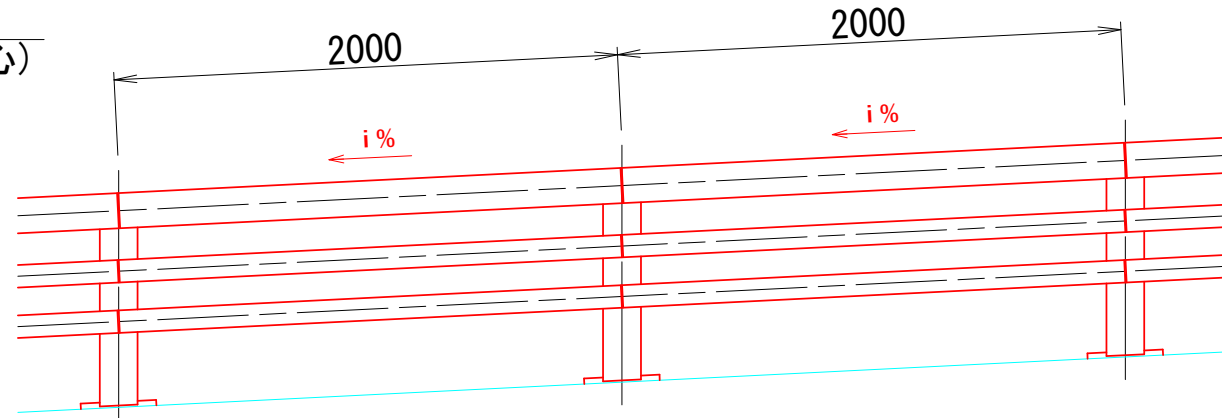
防鏽材

項 目		規 準 値
耐アルカリ性		塗膜に異常が認められないこと
鉄筋に対する付着強さ		7.8N/mm ² 以上
防せい性 試験	処理部	防せい率 50% 以上
	未処理部	防せい率 -10% 以上※

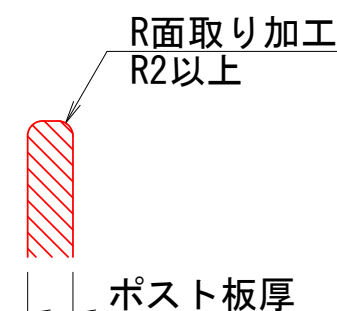
※未処理部の防せい率は、防せい材で処理することによってマクロセルを形成し基部材の鉄筋腐食を促進するようなものであってはならず、比較用モルタルの発生率帆の防程度以下とし、発せい率で+10%以下(=防せい率で-10%以上)とした。

※出典：コンクリートライブラリー
表面保護工法 設計施工指針（案）H17.4（土木学会）

勾配部姿図 S=1:30



ポスト外周端面 S=1:1



アンカーボルト移動可能寸法

